

# TQ 事業協会の根本方針

2012 年 6 月 15 日版

TQ 事業協会運営部長

山田 <sup>まなぶ</sup>学 ©

## 新しい事業の様式

以下に述べるよう、TQ 事業協会の根本方針は、確立しております。

そして、その具体的なあり方は、TQ 事業協会運営部長と、あらゆる方面の方々が対話しつつ、創造してまいります。

つまり、対話に応じてくださった方々が、その方その方なりの創造性により、TQ 事業協会の具体化に参画していただく。そういうことでございます。

あらゆる機会を活し、ささやかな対話を積み重ねる。

目的は、人間社会を健康平和にすることです。

今までの大手商社にもない、新しい事業の様式を創造します。

TQ 事業協会は、宗教運動でもなく、社会哲学の運動でもない。

原始人の感性に学びつつ、次の物理学や生理学や認識学も考える、新しい技術と技能の運動です。

ひとりひとりの健康を高める。

住居や乗物そのものにより、人間を看護する。

食物の流通や調理において、健康の度を高める。

農業や水産業や牧畜業や林業において、健康の度を高める。新しい食物も開発する。

地球表面の健康の度を高める。

このような共同研究をしてまいります。

## 縄文るねっさんす

TQ 事業協会は、危機意識から出発します。

経済や政治の危機もさることながら、思想の危機です。

恐れながら、西欧の論理にも、中国の論理にも、わたしどもは不足を感じます。

それらとは別に、日本民族の文化のもののははれや雪月花や花鳥風月に潜在している、もうひとつの論理を解明してまいります。そのため、漢字輸入以前の日本語の構造を、解明してまいります。

そして、健康や住居や食物流通や農業や環境における、ひろい意味の看護として、<sup>こうそかつせいば</sup>〈酵素活性場〉を調整していく技術と技能を開発してまいります。縄文

時代や弥生時代にも学び、もののあはれの技術と技能を開発してまいります。  
縄文るねっさんすです。

なお、3.11 というわざわいを転じて福となす。東北るねっさんすをも考えます。

TQ 事業協会の基礎である、TQ 技術とは何か。

それについては、<sup>縄文</sup>JOMON あかでみいサイト [www.jomaca.join-us.jp](http://www.jomaca.join-us.jp) 「店頭」画面内「TQ 技術ご案内」をご覧ください。

TQ 技術は、〈酵素活性場〉を調整する技術です。

〈酵素活性場〉という場が、原子核からの放射線に、影響を与えるかどうか。それについては、未研究です。

ただ、同じ放射線環境にあっても、人間や他生物の生体防御力を TQ 技術により高め、害を受けにくくすることは、ありうるかもしれません。

根本問題として、わたしどもは、日本社会と韓国社会を起点とする、より着実な核兵器廃絶運動を、追求してまいります。

今までに、TQ 技術のごく一面的な部分が、 $\pi$  ウォーターと称し、世の中に知られた可能性もあります。ただし、それがそのまま、TQ 技術ではありません。誤解なさないように。

世の中の出版物の一部に、「波動」や「マイナス・イオン」などと表現され、また、TQ 技術の開拓者である山田俊郎自身も、ある研究者に影響され、「宇宙エネルギー」という表現を用いることもありました。TQ 技術は、こう表現された諸現象と、まったく無関係とは言い切れませんが、それら諸現象より、はるかに根幹の技術です。

TQ 技術の核心は、TQ 処理という工程です。この工程はすでに確立している、安定した技術です。ただし、世界の物理学や生理学が今のままでは、この安定した技術を、説明できない、と考えられます。今までの物理学や生理学の修正と補足、これこそが、要請されています。

こういう、人間社会の学問の過渡期である今において、「良いものは広めたい」とする半ば善意から、苦しまぎれに出てきた表現が、「波動」や「マイナス・イオン」や「宇宙エネルギー」などであると、考えられます。

わたしどもは、こういう表現に甘えている限り、世の中に誤解を生じさせる、とする立場です。

TQ 処理は、空間の〈酵素活性場〉を調整するため、物質の〈生命促進性〉という物性 (物理的な性質) を加工する技術です。

## 狭き門

TQ 技術は健康平和のためにあります。

が、人間社会も日本社会もまだ、病的戦争な架空の認識にまみれた、段階です。

どういう認識が健康平和な現実の認識であるか、がわかってくると、希望はなくもないが、それはおそろしく狭き門である。そういうことがわかってきます。ゆったり腰をすえ、対話し続けていくしかありません。

TQ 事業協会は、この超長期展望の対話において、そもそも新しい学問を開拓し、技能と技術をさらに開発し続け、商いを開発し、商いし続けます。

その資金繰りは、世界の金融の権威が短期志向となっている今、短期よりは中期、中期よりは長期、長期よりは超長期の金融を、開発していただくしかありません。

そもそも経済 (=商品流通と金融の総合) について、人間社会と日本社会の経済の伝統の必然、これを理解し、日本社会と人間社会の経済の創造の可能性、これを探る。

こういう本質認識から、TQ 事業協会の創造の可能性、これを探ります。

健康や道徳案の根本について、わたしどもの考えは、JOMON あかでみいサイト「理念集」画面内〈健康生活への道〉に示しております。

わたしどもは、特定の道徳以前に、道徳社というものを提案いたします。同サイト「店頭」画面内〈道徳社のすすめ〉をご覧ください。ひとりひとりが自分なりの道徳を創りあっていく、使いあっていく。そういう流れの通信と会場にこそ、意義があるのではないのでしょうか。

さらに、コンピュータから日本語へ再構築する思想詩を。同サイト「理念集」画面内〈思想志、坦坦し そう し たんたん〉をご覧ください。

たとえば東京スカイツリーの足元に元からあるような、深い下町の良さを、ITの将来なども駆使しつつ、新しい形態にて復活させられるのではないか。そういう生活や商いの将来もあるのではないか。

未来のための TQ 事業協会は、生活や商いの将来を予見しつつ、前進いたします。

なお、TQ 事業協会の、交流と組織の規律はず、自由と平等と健康平和です。

TQ 事業協会は、新しい技術と技能を社会へ具体化していく、智恵の対話そのものを、商うことから出発いたします。未来へ向い研究開発を提案する事業です。

技は、技能と技術の統一です。人間の認識と生体の鍛錬による技である技能。洗練された休養手段や労働手段を用いる技である技術。両者の統一です。

これからの時代、さまざまな地域の、思想や政治や生産のもと、現実の世界の、物理や生理や認識理の、現象や構造や本質を、認識していく。それにつれ、

さまざまな技術や、さまざまな技能を、発達させていきます。

日本が欧米的な音楽や医療に偏っていることは、健康に善くありません。TQ技術は、気功の工業化です。西欧と日本と中国の文化のバランスが必要です。健康の要点はバランスです。イタリアのレオナルド・ダ・ヴィンチは、人体のバランスを研究しました。

## 調和社会へ

TQ 事業協会は、TQ 事業協会を具体化していく、日々の対話により、社会の通信と金融と運輸と建築を、再編してまいります。闘争社会から、調和社会への、再編でもございます。

TQ 事業協会が保護され推進されるよう、日本社会の慣習を修正し、日本国の行政と統治を修正してまいります。

わたしどもは、資産増殖のための教育から、健康平和社会のための教育へ、反転させます。

ありがたい世界を追求しあっていく情感。そういう姿勢動作と呼吸と念を発達させあいます。

健康平和生活にとり、徹頭徹尾必要なものは、文字言語でもなく、音声言語でもなく、健康平和な呼吸です。

現代人は体外からの刺激が多く、認識も複雑だから、体内への注意が弱い。

眉間がさえるよう、丹田に力がこもるよう、原始人並みに、体内に注意する訓練をしてまいります。

空を眺めると、雲がさまざまな立体模様を示します。

あれと同様のことが、長さの単位の km 単位でも、m 単位でも、mm 単位でも、 $\mu$  m 単位でも、nm 単位でもあるか。

その立体模様の縦横無尽の変化が、水の物性の謎に関係しているか。

さらにわたしどもは、原子核内部の立体模様、ということまで、問題にしております。TQ 処理は、原子核内部の立体模様を調整している、と推理しております。核融合や核分裂の問題は、隣接分野の問題です。

## 日本民族

わたしどもは、日本社会の米作りの縄文・弥生時代からの伝統を反省し、これから百年の将来へ向け、創造してまいります。

日本民族は縄文・弥生時代という原点に帰るとともに、むしろその古い文化を活す方向において、今の計測・制御・通信・運輸技術を活用し、園芸と茶室のような、美しい農業と食物流通を創造する。これが、生活環境問題の要点でありましょう。

TQ 技術を世界へ紹介していくことは、日本民族を世界へ紹介していくことに、等しいです。また、21 世紀は、日本語が英語から自立していくべき時期です。16 世紀に、英語がラテン語から自立したごとく。こういう姿勢において、TQ 技術および日本民族を世界へ紹介していく、日本語と英語を創造してまいります。TQ 技術と日本民族をめぐる、労働と生産と休養や愛と死。その事実を報告し体内を訴える、文学の様式も考えたいです。

TQ 事業協会は、未来への対話の、最高の品質と最低の費用をめざし続けます。

TQ 技術は、オカルトではない。物理と生理の本質に接近した、ごく自然な技術なり。ここからそう納得していただけるまで。

TQ 事業協会は、労働と生産と休養や愛と死をみつめる一般人に、具体化していただき、育てていただく協会です。

わたしどもは、武力革命を望まず、金融覇権を望まず、商いにおいて健康平和と研究の対話を望みます。その通信と会場を開発してまいります。経済特区ではありませんが、日本国民が TQ 技術を研究開発の特別対象としてくださるまで。

日本社会にあり、わたしどものところは、暗さのどん底なのに、暗さのどん底だから、明るくなるよね ...。そういう反転です。戦後社会の制度疲労と思考停止からの、脱出です。

TQ 事業協会は、「神に秘された謎」は売りません。〈健康平和社会へ近づく提案〉を売ります。

TQ 事業協会は、アメリカ合衆国を最強とする、世界政治体制のうちにおいて育まれます。もうひとつの公共を、日本社会の民間から、拡張いたします。

対話により、健康平和な現実の認識へ、しだいしだいに、思索や情念が深まる魅力。闘争すべきは闘争し、調和すべきは調和し、しだいしだいに、闘争社会から、調和社会へ、近づく魅力。それをご提供いたします。

労働と生産と休養や愛と死において、こころの平和と自由へ、近づく。

人間社会を健康平和にすることは、そういうことです。

社会と人生から、逃げることはありません。

どなたのこころにもある、健康平和への祈念に期待し、協同社会へ近づいてまいります。原始人のように、〈酵素活性場の予感〉をしてまいります。

### 諸民族の調和へ

TQ 事業協会は、組織そのものというより、組織の編成や結集と、組織の解散の、波です。この波において、しだいしだいに、TQ 技術を応用する組織を、拡張してまいります。

場。原子核。水蒸気。水。ミネラル。油脂。酵素。微生物。遺伝子。

健康や生命やひろい意味の看護にかかわる技術や技能は、これらを、バランスよく総合することが大切です。そのうちの場合、とくに〈酵素活性場〉を調整するという、核心が、TQ 技術なのです。

身長の高低、性別、年齢、部族民族別、武力差、資産差、有名差、買う人売る人、組織の上位下位、資格差、学問や芸術の発達度、などに関係なく、個人と個人が対等平行に、大地に対して立ち、おたがいの個性を尊重しあえる交流、それを増やしていく。この長い長い道のりが、差別のない健康平和社会への道です。

わたしども、健康平和社会へ近づく、新技術運動の協会は、今の病的戦争社会の「常識」や「正当」から、しだいしだいに、脱出してまいります。そういう意味において当面は、誇りある、〈非常識〉と〈異端〉です。わたしどもこそが、〈常識〉と〈正当〉となる、遠い日を夢みつつ。うらしまたろうや孫悟空の物語のうちにある深い深い発想を、生理や物理の現実の認識へと、明るみに出してまいります。なお、物理と生理と認識理は、別々の存在でなく、物理から生理へ認識理へ、主体度が変化しています。

TQ 技術は、これから百年の健康や住居や食物流通や農業や環境へ。

「アニミズム」にも、陰性陽性や「気功」にも、雪月花やもののあはれにも、将来の認識学や生理学や物理学にもかかわる TQ 技術。まずこの技術を、諸民族の調和への象徴としても、発達させたいです。とくに環日本海において。

TQ 事業協会の、これから百年の各種開発は、一部人間が独占すべき性格のものではありません。もちろん、各種専門家の認識は大切だが、労働と生産と休養や愛と死をみつめる一般人の認識が、各種開発に参画してこそ、さまざまな現場へのしっくりした応用ができていきます。

TQ 技術の社会化をめぐり、すでに 1970 年代から、さまざまな方々が、えも言われぬ苦勞をしてきてくださいました。そういう開拓者の方々の、さまざまな失敗を含む貴重な経験に学びつつ、あくまでも開拓者の方々にご恩返しする姿勢にて、TQ 事業協会の交流や組織を、拡張してまいります。

異質を排除しあう社会から、異質を認めあう社会へ。

自身の中の異質を排除する個人から、自身の中の異質を認める個人へ。

健康の要点はバランスであり、健康平和のためにある TQ 技術は、これを何か、一面思想の道具にするなかれ。

一面思想どうしのたたかいであった、今までの人間社会史。そういう悪業<sup>あくごう</sup>から、無理なく無駄なく平和に解脱<sup>げだつ</sup>していく。素朴に調和していた原始人に学ぶ、TQ 事業協会は、未来人による世界の全面認識へ、無理なく無駄なく平和に近づいてまいります。

## 統一へ

TQ 事業協会は、対話の技能と技術こそを、鍛錬し洗練してまいります。

TQ 技術をめぐり、体験や質問や意見を自由に語っていただく。

地域や日本社会や人間社会の未来への予感、それも自由に語っていただく。

TQ 事業協会運営部が、どこまで誠実に、具体的に、対応できるか。

一步、一步、前進してまいります。

TQ 事業協会の初代運営部長は、山田 学です。山田 学が、「自分より運営部長に適任である。」と判断する人格を、発見すれば、その人格へ、運営部長を交替いたします。

まずは日本社会にて、TQ 技術を研究開発の特別対象としてくださるまで、おたがいの信頼関係をどうつくっていくか。

一步、一步、前進してまいります。

日本社会は、エリート層が、中国文化やドイツ文化やアメリカ文化などを輸入することにより、統一が成立してきました。結果、建前と本音の社会になっています。インターネットにより、建前と本音が相互浸透するでしょう。さらに、TQ 技術は、物理と生理の本質に接近していますから、TQ 事業協会は、本音優位となります。日本社会を、本音優位にて統一していく。卑弥呼共立以来の、再びの試みに、TQ 事業協会もかかわります。

TQ 事業協会の商いの核心は、TQ 処理サービスです。一定の素材をお預りし、それに TQ 処理して、お返しすることです。TQ 事業協会の根本方針に忠実な、個人や組織を優先し、TQ 処理サービスを販売させていただきます。

TQ 事業というもっとも難しい、ゆえにもっとも魅力ある、痛快な事業に、わたし個人の人生のすべてを、ささげます。

金融の発達は、あくまでも人間社会統一への準備でした。健康平和な現実の認識の、学問と規範と芸術と保健。こういう教養的活動が発達してこそ、人間社会は真に統一されていきます。そしてこういう教養的活動は、物理学と生理学の修正と補足を要請している、TQ 技術こそが土台となり、発達していくでしょう。

アメリカ合衆国のみでなく、中華人民共和国も台頭してきました。今、世界のさまざまな矛盾が、日本社会に集中してはいないでしょうか。その矛盾の解決にもかかわる、TQ 事業協会。そうして、地球表面の健康の度も高めていく、TQ 事業協会。最後に、遠い夢を語らせていただきます。

\*

凜として、人間社会統一に挑む？